

五十步百步

(中国の古い話)

昔、中国のある王様が、学者の孟子もうしに相談しました。「わたしは、国の人々のために、いっしょけんめいつくしている。それなのに、となりの国より人がふえなもうしいのは、なぜだろう。」

孟子は、少し考えてから、たとえ話で答えました。

「戦いの場で、兵隊たちがにげ出したとします。ある者は五十歩にげて止まり、ある者は百歩にげて止まりました。五十歩にげた者が、百歩にげた者を『おくびようめ。』とわらったら、王様はどう思われますか。」

王様は、すぐに答えました。「それはおかしい。百歩ではないにしても、にげたことには変わりがない。」

「そのとおりです。王様がなさっていることも、となりの国の王様と、大きなちがいはないのです。」

この話から、少しのちがいはあるても、本当は同じようなものであることを、「五十歩百歩」というようになりました。

1

王様が相談した学者の名前は、何ですか。

2

五十歩にげた者が、百歩にげた者をわらうのがおかしいのは、どうしてですか。

--	--

3

孟子が王様に言いたかったことに合うものに、○をつけましょう。

ア　王様のしていることは、となりの国の王様と大きなちがいはない。

イ 王様は、だれよりもりつぱだ。

ウ　兵隊は、にげてはいけない。

4

少しのちがいはあっても、本当は同じようなものであることを何といえますか。